八代港

熊本県土木部河川港湾局港湾課

〒862-8570　熊本市中央区水前寺6-18-1
☎096-333-2515（直通）
URL：https://www.pref.kumamoto.jp/

1. 概況

八代港は熊本県南山岳地帯を流れ八代海に注ぐ球磨川の河口港として古い歴史をもち、背後地として豊富な林産資源を包蔵する九州山地と穀倉八代平野を控え、球磨川を利用した内陸部からの物資輸送及び海産物の集散等、県南の経済、文化の中心として八代の発展に大きく貢献してきた。

本港が近代的な港湾として誕生したのは、明治時代に蛇籠地区に－1.5m物揚場が整備され、物資の輸送等海上交通の基地としての機能を備えてからである。その後、明治23年に日本セメントが立地し、同29年には鹿児島本線が開通。大正11年に十条製紙、昭和12年に興国人絹、同14年に三楽オーシャンと相次いで工場が進出。これらにより八代は南九州随一の工業都市へと発展し、それに伴い港湾の重要性も飛躍的に増大することとなった。

戦後、昭和23年から国の直轄事業により内港地区の改修工事を再開し、導流堤により河川と港湾を分離して、内貿対応施設の整備を進め、同33年からは外港地区の整備に着手、同34年に重要港湾指定、同41年に貿易港としての開港指定がなされ、外貿対応施設の整備が進められた。また、平成25年には特定港に指定された。

こうして、内港地区には、主に内貿貨物を取り扱うための埠頭として、−4.5m岸壁9バース、−5.5m岸壁8バース、−7.5m岸壁2バースが整い、外港地区には、主に外貿貨物を取り扱うための埠頭として、−7.5m岸壁2バース、−9.0m岸壁1バース、−10m岸壁4バース、−12m岸壁2バースが整い、3万トン級船舶の接岸ができる県内最大の港湾となった。

一方、大島南地区は昭和39年有明・不知火地区新産業都市に指定され、同40年には農林干拓地の転用払い下げを受け、約216haの大島南臨海工業用地の造成に着手した。当工業用地は3工区に分割され、造成工事完了後逐次売却が進められ、1工区には同45年に山陽木材防腐㈱、三菱鉱業セメント、同47年に熊本くみあい飼料㈱、同49年にYKK吉田工業等が立地し、2工区については同50年に朝日防火板、ヤマエ久野、十条製紙等に売却がなされた。また、3工区においては、経済情勢の悪化で一時売却が停滞したものの、その後、八代市下水処理場、県南運動公園等の公共用地としての整備がなされたほか、平成元年にはヤマハ発動機㈱、同2年には寿屋㈱などが進出し、さらに、同7年パシフィックグレーンセンター㈱、同8年八代飼料㈱といった穀物関連企業も進出し、売却はほぼ完了した。

近年では、八代市を中心とする本港の背後圏は、南九州西回り自動車道、九州縦貫自動車道及び国道3号と八代港を連絡する八代港線の平成8年の開通を始めとした道路網の整備が進み、また、八代宇城地域が地方拠点都市地域に指定されるなど、今後のますますの発展が期待されているところである。こうした背景を踏まえて、本港についても、物流需要の増大や貨物の小口化、多様化にともなうコンテナ化等の輸送革新への対応や船舶の大型化に対応した物流機能の強化を図るため、平成17年度には、5.5万トン級対応の−14m岸壁2バース等を盛り込んだ港湾計画の改訂がなされ、平成24年度には、−14m岸壁第1バースが完成した。

平成11年6月に韓国（釜山）とのコンテナ定期航路が開設されて以来、県内最大の物流機能を有する八代港では、今後のコンテナ輸送量の増加やコスト縮減を図るため、−12m岸壁にガントリークレーンの大型化をはじめとする新コンテナターミナルを整備し、平成30年4月から本格稼働したところである。

令和2年3月には、クルーズ船専用岸壁（一部は県内初の耐震強化岸壁）や旅客ターミナル、大型バス駐車場などを備えた官民連携による国際クルーズ拠点「くまモンポート八代」が完成し、今後、熊本県の産業及び観光を支える物流・人流の拠点港としてなお一層の飛躍が期待されている。